

国語 第2学年 かん字のひろば③

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：既習の漢字を語や文の中で使い、読みと意味、字形を確かめる。字だけを繰り返し練習するのではなく、相手に伝わる文章にする。 本案では友達に知らせたい活動を題材にし、主語と述語の対応を確かめる。 B(1)エの学習として、友達に知らせたい活動についての自作文、使った漢字の意味、主語と述語の対応を読み返して直した箇所。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。 B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：友達に知らせたい活動についての自作文、使った漢字の意味、主語と述語の対応を読み返して直した箇所を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：示された漢字を無理に全て入れて意味が通らない文を書く、使った字の数だけを数える。これに対して、教科書で示される既習漢字の読みと意味を児童の教科書で確認する。本案では教師作成の学校生活の場面でも言葉を集め、伝えたいことに必要な字を選んで文にする。教科書の挿絵は複製しない。 本案の発展課題は友達に知らせたい活動の文章とし、主語と述語の対応を友達と読み返す。教科書に示された場面を使う場合も同じ観点で確かめる。〔知識及び技能〕(1)エとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「友達に知らせたい活動を知らせる文で、選んだ漢字をどのように使いますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：友達に知らせたい活動についての自作文、使った漢字の意味、主語と述語の対応を読み返して直した箇所は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：教科書で示される既習漢字の読みと意味を児童の教科書で確認する。本案では教師作成の学校生活の場面でも言葉を集め、伝えたいことに必要な字を選んで文にする。教科書の挿絵は複製しない。 本案の発展課題は友達に知らせたい活動の文章とし、主語と述語の対応を友達と読み返す。教科書に示された場面を使う場合も同じ観点で確かめる。完成品だけでなく、友達に知らせたい活動についての自作文、使った漢字の意味、主語と述語の対応を読み返して直した箇所。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「友達に知らせたい活動を知らせる文で、選んだ漢字をどのように使いますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

